

佳作

夢をつかむために

栃木県 栃木市立吹上小学校五年 加藤 由唯

私は、バレエを習っている。ようち園生するとき、友達のカレエの発表会を観てキラキラした衣しうでゆうがな音楽に合わせておどる姿が、とてもかがやいて見えた。私もあんな風におどりたいと思ひ、カレエを習ひ始めた。レッスンは毎回楽しく、上手くいくとほめてもらえた。それがうれしかった。一回転の練習はなかなかきれいに回れず、家でも学校でもどこでも回っていた。きれいに出来るようになったときは、体がふわっとくような感じがした。うれしくてうれしくて、両親やそ父母、いとこ、友達などみんなに回って見せた。みんながすごいね、きれいだねとほめてくれた。楽しくて仕方がなかった。

でも、レッスン内容が難しくなってくると、なかなか上手く出来なくなった。自分では出来たと思っ

ても、先生からはちがうと指摘される。けれど、何がちがうか理解できずなかなか思ひようにおどれない。床をおしてひざを一生けん命のばしてレッスンをしていたが、先生からはひざがのびていないからトウシューズで立ててないと指摘されてばかりいた。そんな時、母が、

「身体改造の講習会に参加してみるか？」

と、てい案してくれた。カレエで使う筋肉の動かし方を教えてくれる講習会だ。私は、これだと思ひった。筋肉の使い方が分かったら、先生が思ひっているひざののびし方が出来るかもしれないと考へ、講習を受けることにした。

講習会当日、私はとてもきんちようした。知らない人ばかりで、年れいもさままだった。どんな練習が始まるのか、自分に出来るのか不安でいっぱいだった。しかし、その不安やきんちようはすぐに消えた。講習会の先生方は、使うべき筋肉の場所をさわりながら力の入れ方を教えてくれた。先生方がさわった場所に意識を集中していくと自然と筋肉がうき上がってきた。まるでま法のように、筋肉が動いていく。自分の力だけで正しく筋肉を動かせるようになるまで、くり返し教えてくれた。七時間休けい

なしで練習した講習会だったが、あつという間に終わっていた。

自たくにもどりいつもの練習をすると、講習会で覚えた筋肉の使い方が出来なかった。悔しくて泣きそうだった。でも、講習会で教わった練習方法で練習すると、また筋肉が動かせるようになった。先生方のま法は、私の中に消えずに残っていたのだ。これが、カレエのおどりの中で使えるようになるには、年単位の練習が必要なことも教わった。私は今までの出来ない原因を理解し、出来るようになるための努力する方法を学べたのだ。

まだまだ思ひ通りに筋肉を使い正しい形ではおどれないが、練習を積み重ねて自分のものにする。そして、いつか見たカレリーナのように、ぶ台でゆうがおどる自分をつかみ取る。そして、みんなに夢と感動を与えられるカレリーナに、私はなる。